

Newsletter

—学会会報—

The Japanese Society for Curriculum Studies

発行：日本カリキュラム学会事務局

目 次

〈理事会報告 (2019 年 6 月 21 日)〉

■ 審議事項

- I 総会議事
- II 各種委員会の活動について
- III その他

■ 報告事項

- IV 事務局報告
- V その他

〈総会報告 (2019 年 6 月 23 日)〉

- I 第 29 回大会年度 (2018 年度) 活動報告について
- II 第 30 回大会年度 (2019 年度) 活動方針案について
- III 日本カリキュラム学会研究奨励賞規程の改訂
- IV その他
- V 第 31 回大会 (2020 年度) 開催校について

〈第 30 回大会報告 (2019 年 6 月 22 日・23 日)〉

『カリキュラム研究』第 29 号・論文投稿先のご案内

〈第 10 回研究集会報告〉

〈日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2019」のご案内〉

〈事務局からのお知らせ〉

理事会報告 (2019 年 6 月 21 日)

定例理事会が 6 月 21 日 (金) 16 時から 18 時 10 分まで、京都大学吉田キャンパス教育学部 1 階第 1 会議室にて開催されました。事務局 2 名を含む 28 名 (うち理事 27 名) の参加がありました。

■ 審議事項

I 総会議事

二宮事務局長より、「第 30 回大会総会 議事次第」が配布され、その内容についての説明があ

った。審議の結果、配布資料の内容にて進めることが承認された。

次に、長尾理事より、30周年記念事業（記念本）について、出版・発送作業まで完了した旨の報告がなされるとともに、謝辞が述べられた。なお、学会買い取り分のうちの未発送分（残部）については教育出版から国際文献社にお送りいただくとともに、残部の扱いについては代表理事に一任されることとなった。

続いて、「日本カリキュラム学会研究奨励賞候補者推薦書」の郵送先の変更（現行の「事務局」から「日本カリキュラム学会会員窓口」（国際文献社）へ）について、事務局ならびに安藤委員長より提案があった。事務局が交代するたびに郵送先が変わるという現行の方式を変更するかどうかについて、推薦書に関する業務内容や経費等をふまえた意見交換が行われた。審議の結果、提案の通りに変更されることとなった。

最後に、上地理事より、次回大会に関して、次回理事会において具体的なプランを提案する予定であることが報告された。

II 各種委員会の活動について

1. 紀要編集委員会（研究奨励賞審査委員会含む）

安藤委員長より、資料に基づき、「日本カリキュラム学会研究奨励賞 規程」「同、推薦書」、ならびに投稿論文の採択に関する現状と課題、修正案に関する提案があった。「日本カリキュラム学会研究奨励賞 規程」「同、推薦書」について、審議の結果、一部表記を修正のうえで提案の通りに進めることとなった。また、投稿論文の採択について、査読のスケジュールやプロセス、判定基準のあり方に関する議論が行われ、審議の結果、判定基準については現行のままで進めることと、査読のスケジュールやプロセスについては紀要編集委員会で再検討のうえで進めることとなった。

続いて、紀要に掲載されている論文をJ-STAGEに掲載するための手続きについては、CiNiiに掲載するための審議に関わった過去の担当者も含めるかたちで拡大委員会を組織し、検討しながら進めていく方針であることが報告された。

第30回大会の大会報告については山口副委員長より改めて依頼がなされることが報告されるとともに、協力依頼があった。

2. 国際交流委員会

近藤委員長より、資料に基づき、北海道教育大学旭川校大会以降の活動報告と今後の活動計画に関する報告があった。

3. 研究委員会

子安委員長より、資料に基づき、2019年3月の研究集会、第30回大会の課題研究、ならびに今後の委員会での意見交換の方針に関する報告があった。

4. 広報・若手育成委員会

村川委員長より、資料に基づき、「秋のセミナー2019」に関する報告があった。

III その他

松下代表理事より、資料に基づき、第32回大会以降の開催校に関する審議依頼があった。今後、検討を行い、次回理事会において決定するかたちで進めることとなった。

続いて、中央教育審議会において現在進められている議論にはカリキュラム研究と深く関連するものがあるため、今後の大会の課題研究等で扱うなど、学会としてどのように向き合うのかを十分に検討することが必要ではないかという提案がなされた。本件については、関連する他学会との連携も視野に入れながら検討を進めていくことが確認された。

■報告事項

IV 事務局報告（後掲の「事務局からのお知らせ」を参照）

二宮事務局長より、「会員現況報告」「寄贈図書等一覧」「会計監査について」について、資料に基づき報告があった。

V その他

西岡理事（第30回大会実行委員会委員長を兼任）より、大会に関する現状報告と協力依頼がなされた。また、正式な発表題目については、発表要旨集に掲載されている要旨の題目とすることが確認された。

次回の理事会については、以下の要領にて開催されることとなった。

日時：2019年11月17日（日） 10:00～12:00

会場：お茶の水女子大学

また、同日の午後に、「秋のセミナー2019」を開催することも確認された。あわせて、会場であるお茶の水女子大学への入構に際しては身分証明書が必要となることが確認された。

総会報告（2019年6月23日）

2019年6月23日（日）の11時50分から12時50分まで、京都大学共北26講義室において、西岡加名恵会員（京都大学）と上地完治会員（次期大会校／琉球大学）を議長団として、総会が開催された。これにおいて、2019年6月21日（金）の理事会で承認された議案が、すべて承認された。

I 第29回大会年度（2018年度）活動報告について

(1) 一般活動報告

①現況概要（2019年6月10日時点）

会員総数 708名（一般会員621名、学生会員79名、団体会員8件）

※連絡先不明者8名、会員一時資格停止者31名を含む。

会費納入状況 2018年度：完納613名 未納39名 計652名

納入率94.0%（昨年度93.7%、一昨年度92.8%）

②第29回大会報告

参加者148名。会報第78号にて既報。

③学会誌『カリキュラム研究』第28号発行

④会報第77・78・79号発行

⑤学会研究奨励賞選考結果

該当者なし

⑥会員勧誘の結果（2018年度内）

新入会員26名（参考：昨年度45名、一昨年度41名）

⑦秋のセミナー2018の開催

日時：2018年11月18日（日）

場所：筑波大学・東京キャンパス文京校舎（茗荷谷）

テーマ：「カリキュラム・マネジメントの研修をどう設計・実施・評価・改善するか
～カリマネ研修のカリマネを考える～」

発表者：[課題提示] 村川雅弘（甲南女子大学）

[事例発表] 吉田尚史（独立法人 教職員支援機構）

[事例発表] 畑中一良（京都市教育委員会）

コメンテーター：根津朋実（筑波大学）

司会者：村川雅弘（甲南女子大学）・倉本哲男（愛知教育大学）

⑧第10回研究集会の開催

日時：2019年3月3日（日）

場所：お茶の水女子大学

テーマ：指導要録の課題を検討する

発表者：石井英真（京都大学）

「学習評価改革の方向性と論点」

上村慎吾（新潟大学教育学部附属新潟中学校）

「指導要録の課題を検討する」

菅間正道（自由の森学園）

『どう見られているか』より『どうしたいか』を育てる評価を」

司会者：子安潤（中部大学）

⑨30周年記念事業

⑩その他

(2) 2018 年度決算報告・監査報告

日本カリキュラム学会
第29回大会年度(2018年度)決算報告書
(2018年4月1日～2019年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	実績(円)
学会年会費	5,000,000	5,119,000
入会金	80,000	76,000
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	40,534
第29回大会収入(除く補助費)	1,100,000	1,038,500
寄付	0	0
前年度繰越金	7,428,075	7,428,075
合計	13,658,075	13,702,109

支出の部

項目	予算額(円)	実績(円)
第29回大会補助費	650,000	650,000
第29回大会支出(除く補助費)	1,100,000	1,048,871
第28号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	570,859
学会研究奨励賞費	0	0
会合費(交通費)	1,200,000	1,194,368
事務局経費	150,000	68,504
事務局外部委託費	1,600,000	1,569,083
ホームページ委託運用費	250,000	187,920
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	50,000
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	10,000
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	105,280
国際交流委員会	100,000	59,409
研究委員会	300,000	245,162
広報・若手育成委員会	300,000	118,524
(小計)	900,000	528,375
30周年記念事業費	3,000,000	0
予備費	200,000	0
次年度繰越金	3,848,075	7,824,129
合計	13,658,075	13,702,109

本簿について監査しました。

2019年 5月 28日

関根 翔伸 (関根)

上野 正道 (上野)

II 第30回大会年度（2019年度）活動方針案について

(1) 一般方針

- ①年次大会（第30回大会）の実施
- ②第31回大会の準備：琉球大学にて開催
- ③学会誌『カリキュラム研究』第29号発行
- ④学会研究奨励賞の選考
- ⑤秋のセミナー2019の開催
日時：2019年11月17日（日）14時～17時
場所：お茶の水女子大学
テーマ：新指導要録と学習評価を考える
- ⑥第11回研究集会の開催
- ⑦会報、その他の広報活動
- ⑧会員勧誘
- ⑨理事・代表理事選挙
- ⑩その他

(2) 2019年度予算案

第30回大会年度(2019年度)予算案(2019年4月1日～2020年3月31日)

収入の部

項目	予算額(円)	備考
学会年会費	5,000,000	過去2年分の実績にもとづく
入会金	60,000	○30名見込み(過去2年の実績による)
学会誌代・雑収入・利子等	50,000	
第30回大会収入(除く補助費)	1,200,000	○第28・29回大会実績にもとづく
寄付	0	
前年度繰越金	7,824,129	
合計	14,134,129	

支出の部

項目	予算額(円)	備考
第30回大会補助費	1,000,000	執行済
第30回大会支出(除く補助費)	1,100,000	第27・28回大会実績にもとづく
第29号紀要刊行費(含む発送費)	700,000	J-STAGE掲載経費を含む
学会研究奨励賞費	0	該当者なし

会合費(交通費他)	1,300,000	○2018年度分の実績および消費税の値上げにもとづく
事務局経費	150,000	
事務局外部委託費	1,600,000	
ホームページ委託運用費	250,000	アーカイブ経費を含む
財)日本学術協力財団賛助会費	50,000	執行済
教育関連学会連絡協議会会費	10,000	
各種委員会経費		
紀要編集委員会(研究奨励賞審査委員会を含む)	200,000	
国際交流委員会	100,000	
研究委員会	300,000	
広報・若手育成委員会	300,000	
(小計)	900,000	
30周年記念事業費	3,000,000	○記念本の買取額にもとづく
理事・代表理事選挙経費	350,000	○前回の実績にもとづく
予備費	200,000	
次年度繰越金	3,524,129	
合計	14,134,129	

III 日本カリキュラム学会研究奨励賞規程の改訂

現在の規程

日本カリキュラム学会研究奨励賞

規程

1995年7月2日

2000年7月9日改正

2007年7月6日改正

2013年7月7日改正

- 1 名称：この賞は、日本カリキュラム学会研究奨励賞（略称：学会賞）と称する。
- 2 趣旨：日本のカリキュラム研究の発展を期して、若手学会員の研究を奨励することを目的とする。そのため、受賞者に賞状ならびに賞金を授与する。
- 3 対象者と賞金：
毎年原則として1名、5万円。
- 4 審査対象：
前々年の11月から前年の10月までに公刊された本学会紀要掲載論文等、カリキュラム研究に関する著書・論文とする。
- 5 審査手順：
審査会内に審査委員会を構成し、全理事が毎年前年の12月末までに論文ないし著書を、2点以内選び、理由を付して審査委員会に推薦する。委員会は、1月～3月に審査を行い、その結果を理事会に報告し、理事会の承認を得て年次総会で発表する。
- 6 審査委員会の構成：
審査委員会は、本学会理事の互選により、当該年の紀要編集委員会を含む10名以内で構成する。審査委員の任期は理事の任期と同一とし、再任は妨げない。委員長は委員の互選とする。なお、必要に応じ会員の協力を求めることができる。
- 7 審査方法：
 - (1) 選考には、委員の過半数（委任状を含む）の出席を要する。
 - (2) 選考は、被推薦論文ないし著書の中から、理事が推薦したもの（以下、被選考論文という）について行う。
 - (3) 被選考論文は、次の観点から審査される。
 - (a) 論述展開の論理
 - (b) 研究の方法・技術
 - (c) 成果の独創性
 - (d) 教育実践への寄与
 - (4) 各委員は被選考論文に順位と意見を付して審議にのぞみ、多数決をもって受賞者を決定する。
- 8 なお、被選考論文がない場合および受賞者が決定しない場合は、その年度の授賞は行わない。

付 則：実施にあたっての細則は理事会において補うものとする。

改訂案

日本カリキュラム学会研究奨励賞

規程(案)

1995年7月2日
2000年7月9日改正
2007年7月6日改正
2013年7月7日改正
2019年6月23日改正

- 1 名称：この賞は、日本カリキュラム学会研究奨励賞（略称：学会賞）と称する。
- 2 趣旨：日本のカリキュラム研究の発展を期して、若手学会員（原則として満39歳以下）の研究を奨励することを目的とする。そのため、受賞者に賞状ならびに賞金を授与する。
- 3 対象者と賞金：
毎年原則として1名、5万円。
- 4 審査対象：
応募締切日から過去2年間に公刊された本学会紀要掲載論文等、カリキュラム研究に関する本学会員の著書・論文とする。
- 5 応募の方法と締切日：会員の他薦により、この賞に応募する旨、毎年10月31日(必着)までに、所定の推薦書により申し出る（著書ないし論文1部を提出）。
- 6 審査手順：
審査委員会を構成し、毎年前年の12月末までに著書ないし論文(以下、被選考論文という)を、2点以内選ぶ。委員会は、基本的に1月～3月に審査を行い、その結果を理事会に報告し、理事会の承認を得て年次総会で発表する。
- 7 審査委員会の構成：
審査委員会は、本学会理事の互選により、当該年の紀要編集委員会を含む10名以内で構成する。審査委員の任期は理事の任期と同一とし、再任は妨げない。委員長は委員の互選とする。なお、必要に応じ会員の協力を求めることができる。
- 8 審査方法：
 - (1)選考には、委員の過半数（委任状を含む）の出席を要する。
 - (2)被選考論文は、次の観点から審査される。
 - (a) 論述展開の論理
 - (b) 研究の方法・技術
 - (c) 成果の独創性
 - (d) 教育実践への寄与
 - (3)各委員は被選考論文に順位と意見を付して審議にのぞみ、多数決をもって受賞者を決定する。
- 9 なお、被選考論文がない場合および受賞者が決定しない場合は、その年度の授賞は行わない。

付 則：実施にあたっての細則は理事会において補うものとする。

日本カリキュラム学会研究奨励賞候補者推薦用紙

年 月 日

受賞 候補者	ふりがな 氏名
	生年月日
	住所 〒 — 電話番号： e-mail：
	勤務先所在地 〒 — 電話番号： e-mail：
候補者の略 歴及び研究 業績	(略歴)
	(業績)
表彰対象	<input type="checkbox"/> a.本学会紀要に掲載された論文 <input type="checkbox"/> b.カリキュラム研究に関する著書 *推薦にあたっては、対象の論文もしくは著書1部を提出すること。なお、応募書類及び論文・著書等は返却いたしませんので、ご了承下さい。
推薦理由	
推薦者	ふりがな 氏名
	住所 〒 — 電話番号： e-mail：
	勤務先所在地 〒 — 電話番号： e-mail：

日本カリキュラム学会会員窓口にて毎年10月31日(必着)までに提出(A4判2頁以内)とする。

【郵送先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター

日本カリキュラム学会会員窓口 (TEL.03-6824-9372)

IV その他

松下代表理事より、30周年記念事業（記念本）について、150冊程度の残部があることが報告された。そのうえで、残部の用途について、各執筆者に1冊ずつ（計50冊程度）を配布するとともに、残りについては今後、大会開催校に謹呈するなどの予定であることが報告された。

さらに、本件に関して、編集責任者である長尾理事より謝辞が述べられた。

V 第31回大会（2020年度）開催校について

場所：琉球大学

日時：未定

第30回大会報告（2019年6月22日・23日）

日本カリキュラム学会第30回大会は、2019年6月22～23日に京都大学を会場にして開催された。参加者は396名（基調講演・シンポジウムのみ参加の46名を含む）であった。

自由研究発表では、17分科会が設けられ、63件の発表があった。各分科会3～4件の発表となり、どの分科会も熱心な議論が展開された。

課題研究では4つのテーマが取り上げられた。課題研究Ⅰは、「実践をつくるカリキュラム・マネジメント」（コーディネーター／司会：吉富芳正・田中統治）をテーマに、長谷博文、石黒和仁、田村知子から提案がなされ、学校現場における教育の質的改善に向けた実践例や支援の在り方が検討された。

課題研究Ⅱは「考えることを考える—哲学する教育の可能性—」（コーディネーター／司会：浅沼茂・近藤孝弘）をテーマとし、坂本尚志、渡邊雅子、福井駿より、それぞれフランス・バカロレア哲学試験、国際バカロレア、アメリカのPhilosophy for Childrenの例が紹介された。

課題研究Ⅲでは、「教科横断型学習の具体像と可能性を検討する」（コーディネーター／司会：的場正美・高橋亜希子、指定討論者：澤田稔）をテーマに、富士原紀絵、戸野塚厚子、堀真一郎より、それぞれ日本のカリキュラム実践史、スウェーデンの「共生」のカリキュラム、きのくに子どもの村学園の事例について発表がなされた。

課題研究Ⅳでは、「カリキュラムの『不易と流行』を語る—学習指導要領とカリキュラム研究—」（コーディネーター／司会：村川雅弘・田村知子）をテーマとした。安彦忠彦より自身のカリキュラム研究と学習指導要領への関わり方についての発表ののち、森久佳、緩利誠から提案があった。

今回の大会では、特別企画として、「カリキュラムを表現するものとしての評価課題（Assessment Tasks as Curriculum Statements）」をテーマに、オーストラリアの評価研究者であるロイス・サドラーによる基調講演が行われた。続く公開シンポジウムでは「評価を活かして

カリキュラムをデザインする」(コーディネーター/司会:安藤輝次・松下佳代)をテーマとして石井英真、小笠原成章から提案がなされ、指定討論者のサドラーよりコメントがあった。特に高次の思考力を育成するためのカリキュラムや教育目標・評価の議論が深められた。

さらに新たな取り組みとして、会員の発案による自主企画セッションも設けられた。自主企画セッションⅠでは、「変動する世界の大学入試—ヨーロッパを中心に—」(企画者:伊藤実歩子、司会:伊藤実歩子・木村裕)をテーマに、奥村好美、徳永俊太、二宮衆一から提案がなされた。また、自主企画セッションⅡでは、「教育における『エビデンス』を取り巻く論争点—ジョン・ハッティの研究をどう読むか—」(企画者:森本和寿、司会:徳島祐彌、指定討論者:松下佳代)をテーマに、原田信之、山森光陽、森本和寿、石田智敬から提案がなされた。大会を締めくくる時間帯であったにも関わらず、多数の参加があり、充実した議論が行われた。

(京都大学:西岡加名恵)

『カリキュラム研究』第29号・論文投稿先のご案内

『カリキュラム研究』第29号(2020年3月刊行予定)の論文投稿先は以下の通りです。

〒662-0827 兵庫県西宮市岡田山 7-54
関西学院大学教育学部 佐藤真研究室
日本カリキュラム学会 紀要編集委員会事務局
sshin@kwansei.ac.jp

第27号記載の[投稿要領]、[投稿にあたっての注意]を熟読願います。なお、「実践研究論文」については、学会HPの「学会誌・出版物」の「投稿にあたっての注意」にある「実践研究論文についての申し合わせ」をご覧ください。

研究論文、実践研究論文とも 投稿原稿の締め切りは9月末日(当日消印有効)です。

会員の皆様の積極的な投稿をお待ちしております。

第10回研究集会報告

2019年3月3日、お茶の水女子大学にて「指導要録の課題を検討する」と題して研究集会を開催した。全国から45名の参加を得て、活発な議論の場となった。

このテーマを選んだのは、2018年12月に、児童生徒の学習評価に関するワーキンググループの議論の整理が出され、指導要録が改訂されたことによる。研究委員会では石井英真・子安潤

が担当し、石井英真（京都大学）・上村慎吾（新潟大学附属新潟中学校）・菅間正道（自由の森学園）の三氏に登壇いただくこととした。

石井氏は、学習指導要領が資質・能力ベースに転換する中で、観点別評価を三つに再構成したのが今回のポイントと指摘し、指導のプロセスを細部まで評価する「指導の評価化」の問題、全ての授業に全部の観点を持ち出すといった問題点があるとした。新たな評価実践として、知識・技能の観点では概念理解を重視すること、学習に取り組む態度については限定的に把握すること、自己調整を教科の内容と関連付けること等について報告された。

上村氏は、知識の記憶量と正確さと「まじめさ」にウエイトをおく現状に対して、単元ごとに育てる資質・能力を明確にし、生徒にも単元の目標を明示する手法を具体的実践で提案した。知識・技能ならびに思考力等の観点では、根拠を基に概念を関連付ける学習を中心に据え、その取り組み方としてのメタ認知や自己調整を学びに向かう力と捉える試みを報告した。報告で注目されたのは、授業の「ネタばらし」にならない単元目標の生徒への提示と「プログレスカード」の取り組みであった。

菅間氏は、高校に入学してくる生徒が他者からの評価に支配されている現状に対して、アクティブ・ラーニングも有意義とは言えないとした。支配の結果一覧としての評定・評価ではなくて、自分の学びに対する生徒自身の振り返りを「自己評価表」として作成し、それに教師がコメントを記す取り組みを提示した。これは、生徒の関心や理解度を生徒自身に捉えさせる取り組みとして注目された。

討論では、評価と評定の混乱が広く存在していることがまず指摘された。観点別評価の内容理解をめぐって、指導することと評価項目として位置づけることを分離する意見、教科の特質を軽視した心理主義的理解の問題を指摘する意見等が提出された。報告者の実践をめぐっても、資質・能力や教材の捉え直しについて意見交換が会終了後まで行われた。

（文責：子安潤）

日本カリキュラム学会主催 「秋のセミナー2019」のご案内

新指導要録と学習評価を考える

日本カリキュラム学会代表理事：松下佳代
広報・若手育成委員会委員長：村川雅弘

主旨

「資質・能力の3つの柱」「学習の基盤」「主体的・対話的で深い学び」「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」など、中軸となるキーワードを持つ新学習指導要領が、2020年4月より小学校で完全実施され、その後、中学校や高等学校等でも実施されていく。そ

れに伴い児童・生徒の学籍並びに指導の過程及び結果の要約を記録し、その後の指導及び外部に対する証明等に役立たせるための原簿となる指導要録についてもその特徴や役割が変わってくると考えられる。

本セミナーでは、本年3月の文部科学省通知「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」の検討を行うと共に、学習評価・教育評価の視点から、俯瞰的、体系的に、新学習指導要領の下で行われていく教育実践について、論議していく。

1. 開催日時：2019年11月17日(日) 14時～17時(受付13時30分～)

2. 開催場所：お茶の水女子大学・共通講義棟2号館102室(⑥の建物、正門からお入り下さい)

<http://www.ocha.ac.jp/access/ochacampusmap.html>

*事前登録の場合でも、入構時チェックを受けますので身分証(社員証、免許証、保険証といった本人の名前が確認できるものであれば可)を必ず持参してください。

3. 参加費：無料

(以下URLまたは右下のQRコードを用いて事前申し込みにご協力願います。事前登録の締切は11月10日です。当日参加も可能ですが、事前登録の方が、入構がスムーズです。できる限り事前登録をお願いします。)

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSc8Swyrmpc6oicS7eGBaAgxtprgEaBoQxdxY1ngBwE_DaBnmw/viewform?vc=0&nc=0&ncw=1&ncsp=mail_form_link



4. 登壇者

企画趣旨説明 広報・若手育成委員会委員長：村川雅弘(甲南女子大学)

司会 小柳和喜雄(奈良教育大学)、柴田好章(名古屋大学)

石井英真(京都大学)：新指導要録の特徴と課題(仮)

安藤輝次(関西大学)：形成的アセスメントの考え方と進め方(仮)

市川伸一(東京大学)：学習評価と自己調整学習(仮)

※詳細は学会HPをご確認下さい。日本カリキュラム学会の社会貢献的行事として、学会員にかかわらず、全ての学校関係者及び教職を目指す学生・院生、報道機関関係者、研究者に公開しています。お誘い合わせの上、奮ってご参加願います。

事務局からのお知らせ

1. 会員現況報告 (2019年6月10日時点)

■会員現況概要 (2019年6月10日時点)

会員総数 708名 (一般会員 621名、学生会員 79名、団体会員 8件)

※連絡先不明者 8名、会員一時資格停止者 31名を含む。

【内訳】

新規入会者：26名

退会・強制退会者：43名

一時停止資格者：31名

連絡先不明者：8名

■会費納入率 (2019年6月10日時点)

2018年度：完納 613名 未納 39名 計 652名 94.0%

※連絡先不明者 8名含む、会員一時資格停止者 31名除く。

2018年度からの新入会者：1名 (一般：1名)

2019年度からの新入会者：25名 (一般：15名、学生：10名)

2019年4月1日からの新入会者：21名 (一般：11名、学生：10名)

■新規入会者 (2019年2月15日～2019年6月7日) 26名

	入会年月日	氏名	所属	区分	推薦者
1	2019/2/15	橘田 進	所属非公開希望	一般会員	事務局
2	2019/2/25	藤野 智子	所属非公開希望	一般会員	赤羽寿夫
3	2019/3/11	後藤 寿樹	北海道札幌丘珠高等学校	一般会員	岡部善平(小樽 商科大学)
4	2019/3/28	西村 猛	京都市立呉竹総合支援学校	一般会員	田中統治
5	2019/3/30	阪上 弘彬	兵庫教育大学	一般会員	事務局
6	2019/4/4	御手洗 明佳	淑徳大学	一般会員	水原克敏
7	2019/4/4	大村 龍太郎	東京学芸大学	一般会員	橋本美保
8	2019/4/5	張 思瑤	国士舘大学大学院 人文科学 研究科	学生会員	正田良
9	2019/4/8	中島 悠介	所属非公開希望	一般会員	事務局
10	2019/4/9	大橋 淳子	所属非公開希望	一般会員	事務局
11	2019/4/11	深見 俊崇	島根大学教育学部	一般会員	事務局
12	2019/4/12	畑中 明	所属非公開希望	学生会員	事務局

13	2019/4/16	石川 敬祐	所属非公開希望	学生会員	倉本哲男
14	2019/4/16	岡田 了祐	お茶の水女子大学	一般会員	富士原紀絵
15	2019/4/17	上野 昌弘	新潟市立高志中等教育学校	一般会員	事務局
16	2019/4/18	杉山 立	所属非公開希望	学生会員	事務局
17	2019/4/18	遠藤 みゆき	所属非公開希望	一般会員	事務局
18	2019/4/18	中山 正則	所属非公開希望	学生会員	事務局
19	2019/4/19	太田 幸宏	所属非公開希望	学生会員	事務局
20	2019/4/22	木村 憲太郎	所属非公開希望	学生会員	田村知子
21	2019/4/26	吉津 美沙紀	所属非公開希望	学生会員	倉本哲夫
22	2019/5/15	佐藤 公美	所属非公開希望	学生会員	事務局
23	2019/5/15	石田 智敬	京都大学	学生会員	西岡加名恵
24	2019/5/24	白鳥 美香	長野県屋代高等学校・附属中学校	一般会員	事務局
25	2019/5/29	堂埜 善法	大和大学	一般会員	事務局
26	2019/5/30	佐藤 雅之	所属非公開希望	一般会員	事務局

■退会者（2019年2月7日～2019年6月7日）30名

	退会日	会員名	所属機関名	会員種別
1	2019/3/31	篠原 啓治	佐久市立浅科中学校	一般会員
2	2019/3/31	田中 節雄	椛山女学園大学	一般会員
3	2019/3/31	森田 英嗣	大阪教育大学	一般会員
4	2019/3/31	浜島 京子	福島大学人間発達文化学類	一般会員
5	2019/3/31	辻村 哲夫	学習ソフトウェア情報研究センター	一般会員
6	2019/3/31	水山 光春	京都教育大学教育学部	一般会員
7	2019/3/31	菅原 寿	宮城県遠田郡美里町立南郷中学校	一般会員
8	2019/3/31	荒井 裕子	木島平村立北部小学校	一般会員
9	2019/3/31	中妻 雅彦	弘前大学大学院教育学研究科	一般会員
10	2019/3/31	今田 晃一	金沢学院大学	一般会員
11	2019/3/31	川北 裕之	千葉県立市川工業高等学校	一般会員
12	2019/3/31	酒井 佳子	所属非公開希望	学生会員
13	2019/3/31	工藤 保広		一般会員
14	2019/3/31	久田 晴生	大同大学	一般会員
15	2019/3/31	石原 陽子	プール学院大学	一般会員
16	2019/3/31	野崎 麻衣子		一般会員
17	2019/3/31	水上 丈実	北海道教育大学旭川校	一般会員
18	2019/3/31	鎌田 明美	鳴門教育大学	学生会員

19	2019/3/31	小川 育子	香川大学	一般会員
20	2019/3/31	金 鍾成	広島大学	学生会員
21	2019/3/31	兼安 章子	九州大学	一般会員
22	2019/4/3	横山 真貴子	奈良教育大学	一般会員
23	2019/4/9	小玉 敏也	立教大学大学院異文化コミュニケーション研究科後期課程	一般会員
24	2019/4/10	藤原 顕	福山市立大学教育学部	一般会員
25	2019/4/15	深川 八郎	東大阪市立上小阪小学校	一般会員
26	2019/4/15	高浪 雅洋	東京大学	学生会員
27	2019/4/16	中留 武昭	鹿児島県立短期大学学長／九州大学名誉教授	一般会員
28	2019/5/7	森岡 修一	大妻女子大学	一般会員
29	2019/5/7	原 勝子	南九州大学	一般会員
30	2019/5/21	(株)木内書店		定期購読

2. 寄贈図書一覧 (2019年2月26日～2019年6月14日到着分)

著者名	タイトル	出版社等	発行日	受領日
藤本和久(著)	マクマリーのタイプ・スタディ論の形成と普及:カリキュラムとその実践思想を読み解く基盤	風間書房	2018/11/15	2018/11/29
グループ・ディダクティカ(編)	深い学びを紡ぎだす:教科と子どもの視点から	勁草書房	2019/1/20	2019/2/5
吉田武男(監修)、根津朋実(編著)	MINERVA はじめて学ぶ教職 10 教育課程	ミネルヴァ書房	2019/2/28	2019/2/25
土井健史、藤谷秀章、他 20 名(共著)	学術会議叢書 25 IT・ビッグデータと薬学:創薬・医薬品適正使用への活用	公益財団法人 日本学術協力財団	2019/2/25	2019/3/14
金井香里、佐藤英二、岩田一正、高井良健一(共著)	子どもと教師のためのカリキュラム論	成文堂	2019/3/30	2019/4/2
子どものシティズンシップ教育研究会(著)	社会形成科社会科論:批判主義社会科の継承と革新	風間書房	2019/3/31	2019/4/4
西岡加名恵・石井英真(編著)	教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価:「見方・考え方」をどう育てるか	日本標準	2019/3/30	2019/4/5

3. 会計監査について

■第29回北海道教育大学旭川校大会のシンポジウム登壇者の謝金・交通費について

4. 平成30年度(2018年度)分会費納入のお願い

前年度分までの年会費が未納の会員の方は、納入をお願いします。2019年6月10日時点での2018年度会費の納入率は94.0%です。納入促進に、会員のみなさまのご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

また、新しい会計年度(2019年度)が始まっております。こちらにつきましても、会費の納入につきましても、ご協力をお願い申し上げます。

会費納入状況につき、ご不明の点がございましたら、ご遠慮なく(株)国際文献社内・日本カリキュラム学会会員窓口までお問い合わせください。

(年会費：一般 8,000円、学生 4,000円、団体 10,000円)

【 入・退会、年会費納入、会員 web 管理、会報発送等各種問い合わせ先 】

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター (株) 国際文献社内

日本カリキュラム学会会員窓口

Tel : 03-5389-6213 Fax : 03-3368-2822

E-mail : jscs-post@bunken.co.jp

【 上記以外の学会運営に関する問い合わせ先 】

〒640-8510

和歌山市栄谷 9 3 0 和歌山大学教育学部 二宮衆一気付

日本カリキュラム学会事務局

E-mail : jscs@nifty.com

【 学会ホームページ 】

URL : <http://jscs.b.la9.jp/>